

◇この議事速報（未定稿）は、正規の会議録が発行されるまでの間、審議の参考に供するための未定稿版で、一般への公開用ではありません。

◇後刻速記録を調査して処置することとされた発言、理事会で協議することとされた発言等は、原発言のまま掲載しています。

◇今後、訂正、削除が行われる場合がありますので、審議の際の引用に当たっては正規の会議録と受け取られることのないようお願いいたします。

○とかしき委員長 次に、尾辻かな子さん。

○尾辻委員 立憲民主党の尾辻かな子です。

時間がないので早速質問に入りたいんですけども、今回、厚労委員会、八月四日以来三週間ぶりとなります。そして、この閉会中審査、僅か二時間余りです。この感染爆発とも言える状況の中で、こんな短くていいのかと。

今、通常医療が提供できない地域が広がって、今日、八道県が新たに緊急事態宣言を広げる予定、合計二十一道府県が緊急事態宣言になります。第五波は感染者数も過去最大、重症者数も過去最大。こんな危機に、やはり私、議論がありました、国会を閉じていいのかということですが。

憲法五十三条に基づいて、私たちは国会の開会要求をしています。このまま国会の開会要求に応じないということは、政府や政治に対する信頼が失われてしまう。臨時国会の開会をまず強く求めておきたいと思えます。

それでは、感染拡大、現状をお伺いしたいと思

います。

現在の、まず、コロナ感染陽性者の自宅療養者数、そして療養先調整中の人数は一体何人に今なっているんでしょうか。数字だけお答えください。止めてください。委員長、止めてください。これは通告していますから。委員長、止めてください。

○とかしき委員長 筆記を止めてください。

〔速記中止〕

○とかしき委員長 筆記を起こしてください。

正林健康局長。

○正林政府参考人 お答えします。

時点は八月十八日ですが、自宅療養者数が九万六千八百五十七人、療養先を調整中の方が三万一千百十一人です。

○尾辻委員 私、これは昨日、質問通告させていただいているんですが、ちよつとそれぐらい、数字がぱつと出てこないほど今厚労省の中が大変なのか、逆にちよつと心配になりましたけれども、十三万人です。

そして、これもちよつとお聞きしたいんですけども、じゃ、その十三万人の中で、無症状の方、無症状だから自宅にいるという方はどれぐらいいらっしゃるのか、つかんでおられるでしょうか。

○正林政府参考人 症状のある、なしは把握できておりません。

○尾辻委員 今、皆さんも御承知のとおり、保健所がパンクをしております。なので、濃厚接触を追えないという状況がありますから、今までの自宅療養の方々に比べて今の自宅療養の方々という

のは明らかに症状がある方が自宅療養をされている、それも十三万人の方々であります。

さらに、今、自宅療養で亡くなった、救急搬送されたけれども時既に遅かったというニュースが流れており、東京都内だけで八月に入って十二人の自宅療養死のニュースが報道をされております。なのに、昨日からパラリンピック大会が始まりました。

この療養をされている皆さん、本当に不安で、息も苦しくて、そして、もう自宅療養というよりは自宅放置。こんな状況の中、皆さんが思っているのは、パラリンピックをやる余裕があるのなら命を救ってほしい、皆さん、今そう思われているはずなんです。ですので、そのことについてお伺いをしていきたいと思えます。

まず、感染拡大が止まらない状況。何せ、オリンピック開催のときは東京都内の感染者は千三百人ぐらいです。今、四千人から五千人。状況が完全に変わっております。

さらに、じゃ、人々の意識が変わっているのか。私は正直、東京オリンピックの開催によって、人々の気持ち、感染拡大を自分たちで止めなきゃという気持ち、やはり離れていると思うんですね。それはなぜか。

例えば、IOCのバッハ会長が銀ぶらされるわけですよ。銀座を何か散歩されている、何か記念撮影にも応じている。それを、じゃ、丸川担当大臣は、不要不急の外出は御本人が判断することと、かばうような発言をされている。これで誰が、一緒になって、今本当に大変だからやはり一

一人外出を止めなきゃいけないという気になるんでしょか。この辺、物すごく、私は、ちくはぐで矛盾している。

昨日でしたっけ、おとついでですか、四十人でレセプションされていますよね、パラリンピック。

これだってどういうメッセージになるのか。私は、本当にこれは矛盾だらけじゃないかと思うわけです。

尾身会長は、この辺りの、矛盾したメッセージになつていてはないかという私の思いについて、どうお考えになられるでしょうか。

○尾身参考人 私は、現在の状況が、去年の四月、第一回の緊急事態宣言のときの最も大きな違いは、ここに来て、やはり人々の意識、自分らで判断したい。当時は、もう何も分からなかったので、極力八割、最低七割というのを多くの人が不安という糸口でやってくれたけれども、今はもういろいろな人がいろいろな思いでやっている。

そういう中で、実は、私も再三申し上げたのは、オリンピックのこと、メッセージがどうなるか、バブルの中のことよりは、このことがどういうメッセージを出して人々の意識に影響するかというのが大事だということは再三申し上げてきました。

それで、今委員のおっしゃっている、バツハ、私はお会いしたことはありませんけれども、例えば、今、人々にテレワークを要請しているわけですよね、そのときに、今回また来るので、バツハ会長の挨拶が必要なら、なぜオンラインでできないのかというような、こういうことですよね。

それから、小学校の方に、いわゆる小学校観戦ですか。これは、私は、恐らく小学校の子が行っても感染はしないという確率の方が高い、熱中症のことはあるけれども、実はそこが問題じゃないんです。これだけの、みんながあれしているときに、子供の教育といっても、子供の教育は幾らでもできる、何でもこの時期に、このことが、問題の本質はそこで感染が起きるか起きないかじゃないんです、今は。そのことがどういうメッセージを一般の一人に、ああ、ということが実際に起きていると私は確信しています。

したがって、先ほど、国会議員の先生もテレワークができれば一部の会議はやっていただきたいという、こんなことを、ずうずうしくて申し訳ありませんけれども、そういうことも含めて、やはり、国民にお願いしているんだしたら、オリンピックのリーダーは、バツハ会長、何でもわざわざ来るのかと。そこでは、そういうことをなぜ、普通のコモンセンスならできるはずなんです。もう一回来たから、銀座も一回行ったんでしよう、こういうことをほとんど、これは私は、専門家の会議のとうりよりも、一般庶民としてそう思います。実は、パラリンピックは一生懸命やった人にとってももらいたいという気持ちは多くの人があるんですけれども、なぜわざわざバツハ会長がもう一回、そんなのオンラインでできるじゃないですかというふうな気分が多分、一つの例ですけれども、そういうふうに私は強く思います。

○尾辻委員 今非常に踏み込んで発言いただいたと思います。なぜ感染拡大が止まらないのか、そ

れは政府がばらばらなメッセージを出しているからです。だから誰もできない状況になるわけです。

もう少しパラリンピックのことをお聞きしたいと思えますけれども、私、今現場の方々から聞こえてくるのは、今、高齢者の方は確かにワクチンを打ち始めて、高齢者施設でのクラスター、やはり減ってきました。ところが、優先接種の順番である障害のある方々や障害の施設、ここはまだワクチンが届いていないところが多いんですね。だから、今クラスターが起きているところは、実はワクチンがまだというところなんです。

じゃ、パラリンピック、八八%の選手の方がワクチンを打ってやっている。日本の今ここに住んでいる障害のある方々に早くワクチンを届けてくれ、そっちの方が先じゃないか、そう思うわけです。

そして、じゃ、このパラリンピック開催によって更に医療関係者が取られるんじゃないかということをお聞きしたいと思えます。

パラリンピックの医師と看護師の体制、一日何人ぐらい、大会期間中何人ぐらいこのパラリンピックで医師、看護師は体制を取らるんでしょうか。

○十時政府参考人 お答え申し上げます。競技数がピークとなる八月二十八日におきまして、医師は百二十人程度、看護師は百五十人程度を想定しているところでございます。

○尾辻委員 百二十人ですよ、医師が。看護師百五十人です。じゃ、全体ではどれぐらいですか、十三日間全体で。

○十時政府参考人 お答え申し上げます。

オリパラ大会全体で、医師、看護師等を含む医療スタッフ、約七千人を想定しておりますけれども、このうち三分の一度がパラリンピックに従事すると組織委員会から伺っているところでございます。

いずれにいたしましても、現下の感染状況を考慮しながら、組織委員会において随時丁寧な調整がなされていくものと承知しております。

○尾辻委員 オリパラで、全体で七千人。パラリンピックでは何人ですか。

○十時政府参考人 お答え申し上げます。

七千人のうちの三分の一度がパラリンピックに従事するというところでございまして、これは、それぞれの方が大体五日程度従事するという想定ではじいた数字でございます。

○尾辻委員 こんな矛盾したことがありますか。いや、私だってそれはパラリンピックの選手に頑張っていたみたいです。でも、優先順位が今全く違うと思います。今ここで、本当に苦しい、息もできない、救急車を呼んでも運べない、三次救急はもうほとんど応需率が一割切っているような状況。

私は、パラリンピックは始まっていますけれども、やはり感染拡大が止まらないのであればこれは止めなければいけない、中断しなければいけない、そういうことも今視野に入れるべきときに来ていると思います。いかがですか。

○十時政府参考人 お答え申し上げます。パラリンピックに従事する医療スタッフにつきまして、コロナ対応に従事していないスタッフ

クターですとか潜在看護師を中心に、組織委員会において確保をしてきているということでございます。今、中止をしてはという話もございまして、たけれども、東京都を含む多くの地域において：（発言する者あり）

○とかしき委員長 静粛にお願いします。

○十時政府参考人 新規感染者数の増加が続いていることから、パラリンピックにおいても、感染拡大の防止を通じて医療体制の逼迫を防ぐということに取組んでいるところでございまして、パラアスリートの特性に配慮しながら、選手や大会関係者について、定期的な検査、厳格な行動管理、健康管理などの防疫上の措置を徹底するとともに、国内にお住まいの方々との接触を厳に回避することにより、大会参加者の感染を防止し、安全、安心な大会運営を確保することとしております。

特に、これらに加えまして、パラリンピック期間中の更なる感染防止対策として、組織委員会におきまして、選手村に出入りするスタッフ、国内関係者ですけれども、検査の頻度を上げるとともに、海外からの入国者につきましても、アスリート等以外の大会関係者について：（発言する者あり）

○とかしき委員長 御静粛にお願いします。

答弁は簡潔にお願いします。

○十時政府参考人 入国後十五日以降もグループ上のルールに従った行動を維持するよう要請し、取り組んでいるところでございます。

○尾辻委員 安全、安心して、呪文のように唱えたらできるわけでもありませんし、例えば、今、

八月二十三日付で、田村大臣と小池知事は、東京都内の医療機関の長や医学部を置く国公私立大学長、看護師学校、養成所長宛てに、とにかく病床を広げてくれということとともに、病院や臨時の医療施設、宿泊療養施設、入院待機ステーション、酸素ステーションその他に、医師、看護師を一人以上派遣してくれと言っているんです。この状況の中で、先ほど言ったような、医師、看護師を動員してパラリンピックをやるって、もう矛盾の塊だと思えます。

じゃ、実際に、パラリンピック、障害のある方、基礎疾患のある方がやるわけです。スポーツをするわけですから、けがをされることだってもちろんあるわけですよ。もしこれが重傷だった場合、三次救急とかに運ばれた場合に、本当に指定病院、これ、できるんですか。この方々、本当に入院できるんですか。今、コロナの方、重症者の方も入院できないのに、この方々をどういうふうにして入院させるんですか。

○十時政府参考人 お答え申し上げます。

組織委員会におきましては、東京大会における大会指定病院といたしまして、都内九か所、都外二十か所の病院に御協力をいただいていると伺っているところでございます。

こうした大会指定病院からは、パラリンピックにおいても引き続き協力を行う旨の意思表示をいただいております。現在の状況、医療機関の意向も伺いながら、丁寧に調整を進めていくものと承知をしております。

○とかしき委員長 尾辻かな子さん、申合せの時

間が来ておりますので、御協力をお願いいたします。

○尾辻委員 田村大臣、今、東京都内の医療機関の逼迫というか切実な状況、もう御存じですよ。テレビでもやっていましたよね、五十五歳の一型糖尿病の男性が、結局、病院は見つかったけれども、断られて、おうちに帰って、そして最後、亡くなられた。こういう状況なんですよ。

だから、本当に、やはり国民の命を守る大臣としても、今、パラリンピックをやるべきときなのか。そして、今始まっていますけれども、中止も含めてちよっと政府の中でしっかり検討いただくように。もう命が懸かっていますから。そして、政府、私たちが優先するのか、問われていますから、強くお願いを申し上げて、私の質問を終わりたいと思います。

ありがとうございます。